

UNIT 1～4の4ステップで実施できる防犯教育【燕市立粟生津小学校】

ねらい

『犯罪機会論』による防犯の方法として提唱されている「入りやすく見えにくい場所」という景色の見方を学ぶことを通して、人(＝不審者)ではなく、機会(＝場所)に着目して、犯罪から身を守るための自分なりの方法を考えることができる。

UNIT 1
知る(3時間)

タイトル 「入りやすく見えにくい」場所って、なに？

ねらい(学習目標)

1. 「防犯」に係る「危険な場所」とはどこか、『犯罪機会論』の提唱者である小宮教授から直接話を聞いたり、質問したりする活動を通して、自分の住む地域にも「危険な場所」があるかもしれないと気付くことができる。



UNIT 2
調べる(5時間)

タイトル 地いきに「入りやすく見えにくい」場所は、あるかな？

ねらい(学習目標)

1. 保護者と共に地域を散策したり、GoogleMapを活用して探したりする活動を通して、自分の住む地域に「危険な場所」がないか探することができる。
2. みんなが探した「危険な場所」を吟味する活動を通して、自分の住む地域に「危険な場所」がいくつもあることに気付くことができる。

関連:社会
「わたしたちの
まちと市」

UNIT 3
気付く(5時間)

タイトル 「人」ではなく「場所」が大切！

ねらい(学習目標)

1. 「危険な場所」について、『安全マップ』にまとめる活動を通して、犯罪機会を「人」で判断するよりも「危険な場所」で判断する方が分かりやすいと気付くことができる。
2. 保護者に発表する『安全マップ』の見せ方や発表の仕方を見直す活動を通して、「自分を守る」ためには、人(＝不審者)ではなく、機会(＝場所)に着目することが改めて大切であることに気付くことができる。



UNIT 4
伝える(3時間)

タイトル みんなも「場所」に気づいてほしい！

ねらい(学習目標)

1. 学習参観時、保護者に「危険な場所」とは何か、『安全マップ』を活用して自分の住む地域の「危険な場所」は、どこか発表する活動を通して、機会(＝場所)に着目することの大切さを伝えることができる。
2. 地域の方々や全校児童に、機会(＝場所)に着目することの大切さを伝える方法を考える活動を通して、これからも自分の命を守るための「防犯」に対する意欲を高めることができる。



児童の姿(成果と課題)

UNIT1からUNIT2にかけ、人(＝不審者)ではなく、機会(＝場所)に着目することを押さえながら活動を行ったことで、テレビや新聞等で犯罪に関わる記事を見つけた際には、「入りやすい場所だったのかな。」「見えにくいところなのかな。」という言葉が児童から聞かれた。また、児童アンケートの結果からも「見た目だけで怪しい人が判断できる」や「暗い道やガードレールがある道が危険」という質問に対し、「そう思わない」と回答する割合が事前より事後が多かった。これらのことから、児童は、本単元を通して、犯罪機会論の知識を獲得できたと考える。一方で、その知識を保護者や地域の方々に伝えることが難しい様子であった。今後は、発達段階に応じてUNIT4を見直していく必要がある。